



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2018年(平成30年)4月25日号 No.1758

## 目次

■ 2017年のロシア・NIS諸国の経済(下)	1
■ キーパーソン	13
キルギスで首相交代／13	
アルメニア首相、反対デモを受け辞任／13	
■ 『ロシアNIS調査月報』2018年5月号のお知らせ	14
■ トピックス	15
ウクライナがCISからの離脱を表明／15	
SBIバンクが米企業のコンソーシアム参加／15	
日本とロシアが海技資格を相互承認／15	

## 2017年のロシア・NIS諸国の経済(下)

### はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会および各国統計局発表のデータ等に基づき、2017年の経済実績を中心に、NIS諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。

今回は、全13カ国の主要経済指標を表にまとめて掲載するとともに、ロシア・NIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けした。今号では中央アジア諸国(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン)、南コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア)、モンゴルを扱う。

なお、前号にて掲載の表にデータの不整合があったため、訂正のうえ、本号に再掲載する。

### カザフスタン： 脱石油へ、幾度目かの構造改革チャレンジ始まる

2017年のカザフスタン経済は、国際金融機関等による2.2～2.5%増という当初の予測を大きく上回る、GDP対前年比4.0%増という上々の回復をみせた。主要経済指標はいずれもプラスに転じているが、特に鉱工業生産の7.1%増は2年連続のマイナスを脱したというだけでなく、過去10年間で2番目に高い成長率である。その原動力は無論、油価の上昇とカシャガン油田生産再開による産油量の増加で、2017年の生産量は対前年比10.5%増の8,620万tと史上最高を記録、うち6,890万tが輸出された(前年比12.4%増)。石油産業の復調を受けて通貨テンゲの為替レートは1年を通じて1ドル＝約330テンゲの水準で安定、インフレ率は前年の14.6%から7.4%に半減した。縮小傾向が続いていた貿易もまた拡大に転じ、特に輸出の増加により貿易黒字は前年比66.7%増の190億ド